

(ポイント) 神との関係を妨げている事柄を取り除く（ここでは特に罪について）  
他の人を赦すことについては、第2コース（B）の人との関係で取り扱いたいと思います。

<02>

「救い」はキリストを信じたときに、即座に手に入れることができます。また過去に犯した罪、未来に犯す罪の全てが赦されます。あなたはこれからも罪を犯すかもしれません、今はもはや罪の奴隸ではありません。

<03>

神の目には過去の罪や過ちは全て帳消しになっている（ミカ書7：19）ので、それを思い起こす必要もないのですが、けれども、救われた後、必要に応じて時間をかけて過去の処理をしていくことをお勧めします。  
それは、犯した罪を神の前に持っていくこと（具体的に言うなら、神の前に犯した罪を告白すること）です。

<04>

福音の本質から言って、過去の罪をひとつづつ事細かく告白し悔い改めなければならぬわけではありません。  
過去の罪も、現在の罪も私たちのすべての罪はキリストを信じたときにしておきたいからです。

<05>

しかし私たちの過去を逆手にとって責め立てるサタンがいる以上、自分の良心と敵との間に隙を作らないためにも、その時に応じて自分の罪を神の前にさらけ出すことはあなたの信仰生活を有利にすることでしょう。

<06>

### 1) すべての人は罪人である

以前にお話しましたが、罪とは心の性質です。みだらな思いを抱いても法律では裁かれませんが「情欲を伴う女性を見る人は姦淫の罪を犯している」と聖書にあるように。法律に触れなくても神の目には罪なのです。

<07>

同様に、人をうらやんだり、競争心を持ったりすることも神に喜ばれることではありません。

そういう意味において、すべての人が何らかの罪と呼ばれる悪い心の性質を持っているということです。

<08>

### 2) 罪の悔い改め

その罪の鎖を断ち切る行為が「悔い改め」です。

悔い改めとは、単に過去にした出来事を思い出して、悲しむことではありません。泥棒でつかまつた人がオイオイ泣いていました。それで、泣いている理由をたずねたら、「逃げると同時に、靴が脱げてしまったので早く逃げれなかった。くやしい」といいました。これは後悔であって悔い改めではありません。

<09>

また、単に、悪い事をしていたのをやめるだけではありません。

他の人をいつもうらやみ、ねたんでいる人がある所にいました。ところが、ちょっとした宝くじが当たって、しばらくの間、懐があったかかったので、もう人をねたんだりしませんでした。

<10>

しかし、これは、妬むのを休んでいるだけで悔い改めではありません。心の悪い性質が取り除かれていないので、お金が無くなったら、いやあるなしにかかわらず、また、人を妬んだり、うらやんだりすることでしょう。

<11>

「悔い改め」という言葉の意味は今まで進んでいた方向を変えて反対の方向に向かうことです。ですから今までしてきた悪い事を単にやめるだけではありません。

<12>

### 3) 方向転換と悔い改めの実

エペソ 4:28) 盗んだ者は、今後、盗んではならない。むしろ、貧しい人々に分け与えるようになるために、自分の手で正当な働きをしなさい。

<13>

聖書は盗みをやめるだけでなく、与える人になるように言っています。

それは、その人の人生の方向が全く変わってしまったことを意味します。そのように、本当に悔い改めているのであるなら悔い改めの実を行動によって示すべきです。

<14>

### 4) 罪の告白

現代多くの人が精神的に病んでおり、罪悪感、拒絶感を感じています。  
その原因のひとつは、隠された罪や、汚れた思いが原因となっています。

しかし、神に罪を告白するなら、赦しを受けることができます。

<15>

中世までは、人々は神と直接関係を持つことができず、罪の告白も、祭司に向かってしなければ有効ではないと教えられていましたがその考え方は正しくありません。

クリスチャンは万人祭司であり、「すべての人が直接神様と関係を持ち、彼に向かって告白するなら、罪の赦しを受けることが出来る」ということは中世の宗教的束縛から人々を自由にした真理です。

<16>

(詩篇 32:3 私は黙っていたときには、一日中、うめいて、私の骨々は疲れ果てました。32:4 それは、御手が昼も夜も私の上に重くのしかかり、私の骨髄は、夏のひでりでかわききったからです。セラ 32:5 私は、自分の罪を、あなたに知らせ、私の咎を隠しませんでした。私は申しました。「私のそむきの罪を主に告白しよう。」すると、あなたは私の罪のとがめを赦されました。セラ

<17>

それでも、サタンはまだ赦されていないとかいって偽りを私たちに吹き込むかもしれません。サタンの名の意味は「訴える者」だからです。(黙示録 12章 10節)

<18>

ゼカリア 3:1)・・大祭司ヨシュアと、彼を訴えようとしてその右手に立っているサタンとを見せられた。・・・3:3 ヨシュアは、よごれた服を着て、御使いの前に立っていた。(中略)・・「彼の汚れた服を脱がせよ。」そして彼はヨシュアに言った。「見よ。わたしはあなたの不義を除いた。あなたに礼服を着せよう。」

<19>

本当は赦されているのに、お前はまだまだだと言うサタンの偽りにどのようにして対抗できるのでしょうか？その為に教会というコミュニティーがあるのです。

<20>

## 5) 解放とコミュニティー

個人で神様につながることは 16世紀の宗教改革で勝ち取った真理です。しかし「まったく他のクリスチャントリニティの助けを必要としない」「誰かに自分の弱さや罪を伝える必要は無いと言うなら、それは別の意味での極端になってしまいます。

<21>

基本的に、罪の告白は神に対してするものなので、人に対する必要はありません。

しかし、それにもかかわらず、何度も神に祈り告白しても、その罪の誘惑から解放されなかつたり赦しを確信できないこともあります。そのような場合には、神が与えた方法をすべて用いる必要があるかもしれません。

<22>

聖書には次のように書いています。

(ヤコブ 5:16) ですから、あなたがたは、互いに罪を言い表わし、互いのために祈りなさい。いやされるためです。義人の祈りは働くと、大きな力があります。

<23>

聖書がこういっているように神との関係だけでは、十分に赦しを実感できなかつたり癒されない場合であっても、人との関係を通じて完全な解放がなされていくのです。なぜなら、神の計画は人が個人だけで直接神とつながることだけでなくコミュニティーを通じてつながることだからです。(参考: 第1ヨハネ 1:7)

<24>

キリストの律法を全うさせる。

(ガラテア 6:2) 互いの重荷を負い合い、そのようにしてキリストの律法を全うしなさい。

<25>

キリストの律法とは本質的に神が人に要求している事柄です。誰も、それを守りきることはできませんが、神の定めは「互いに重荷を合いあうこと」=「コミュニティーの中にとどまること」をするなら、それをもってして、律法の要求を全うしている認められるのです。

<26>

このコミュニティーを通じての癒しというのは、過去の悪い経験、トラウマ、悪霊との間違った契約、人を赦していないことから来る束縛などといった事柄からの解放のために効果的です。

また、中毒、依存症といった事柄から解放されるのに有効なことは、問題に光に当てる事(他の人に告げて祈りあうこと)です。何か思い当たるふしがある人はリーダーや教会のスタッフ、牧師に相談してください。